学校評議員会の実施報告書

学校名　岐阜県海津特別支援学校
学校長　石原　和寿
所在地　海津市平田町今尾３８８５－２　　電話　０５８４－６６－２８８８

１　会議の名称
　岐阜県立海津特別支援学校　学校評議員会

２　会議の構成
　学校評議員
　　児玉　泉　　民生委員（主任児童委員）
　　水谷　芳郎　　有限会社吉野屋　代表取締役
　　細井　豊年　　海津市平田町今尾地区　前区長
　　高岡　由香　　障がい者センター　あいさんハウスぎふ　施設長
　　川瀬　恵里子　同窓生後援会会長
　学校関係
　　石原　和寿（校長）　木村　美穂（PTA 会長）　安部　晃（事務長）
　　神谷佳代子（教頭）　神戸　茂　（小学部主事）　伊藤　智子（中学部主事）
　　佐藤　鈴子（高等部主事）

３　会議の目的
　学校運営等について関係諸機関や地域住民から幅広く意見を聞き、地域社会から支援協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

４　会議の開催
　第２回　令和２年２月６日（木）　各学部の取組説明と学校への提言等

５　会議の概要
　① はじめに（校長挨拶、日程説明）
　② 各部からの今年度の取組説明
　③ 説明を聞いての感想と学校への提言

【校長挨拶】・現在児童生徒数は４５名である。Ｈ２７年度にピークであったが、翌年羽島特別支援学校、そして平成３０年には大垣特別支援学校の総合化、西濃高等特別支援学校が開校し、本校の児童生徒数が半減した。少人数ではあるが、みんな仲良く元気に過ごしている。また、働き方改革の中で行事の精選に取り組んでいる。

・授業改善に力点を置き、県の施策もあって各学部２台ずつＩＣＴの機器を入れこれからどのように有効に活用していくかを考えたい。
・本年度は県の監査員事務局による本監査や弁護士による包括外部監査を受けたが、大きな指摘事項はなかった。会計関係については透明性をもってすすめている。
・「地域密着」といわれるが、校長としてはこのような小さな学校なので、「地域完結」を思っている。学校で学んだことを地域で完結させることを願い、また、地域の方々に認めてもらえるような学校になっていくとよいと思う。そのような中で「かいづスマイルサポーター」の登録数が 70 名になり運動会や文化祭といった行事のボランティア・高等部における作業学習の補助・昼休みの読み聞かせの会にお力をいただいている。学校の課題は尽きないが、少人数の学校ということで手厚い支援・指導ができる中で、教員が手をかけすぎることで子どもたちの伸びようとする芽を摘んでしまわないように子どもの主体性を大切にして実践を重んじながら育てていきたい。
・今日は各学部の部主事から取り組みをお話しする。それについて忌憚のない意見をお願いいたします。

【各部からの取組の発表後、学校評議員からのご意見】

意見１・行事等を行う前には、必ず子どもたち自身が体験するという活動がよい。
・この地域のどの学校もそうだが、アットホームだということはとても良いが、アットホームすぎて学校の先生には何でも話せるけれども外部の方には挨拶も出来ないという姿がある。話にもあったが、目を離さないけれども手は離していくということは大切だと思う。
・ＰＴＡとしっかりと連携がとれていることはとても良い。続けてもらいたい。
質問１・久しぶりに学校におじゃましたが、児童生徒数がかなり減っていることにびっくりした。
・通常の学校では、指導要領に沿って学習をすすめているが、特別支援学校では児童生徒一人一人の個性に合わせて、同じ学年であっても習熟度に合わせて適切な指導をしていらっしゃるがどのようになっているのか。また、修学旅行、宿泊、地域でなど体験を大切にしているが、学校のカリキュラムはどのようになっているのか。効果的な活動は１年に何回か行うことができるなど自由度はあるのか。
学校→・修学旅行や宿泊などといった大きな行事はお金のことがあるので増やすということは難しい。校外学習については、子どもの実態によって増やすこともある。国語や算数もあるが、生活の中に般化していくのが難しい子どもたちなので例えばお金のことについても算数で学んだことを校外学習などで生活の中で実際にやり取りする中で体験して学ぶことを行っている。毎年何回と決まっているわけではなく、学習を組む段階でどれだけやれば身についていくかを各クラス・学年で話し合いをし組んでいるが、年度当初に年間計画を立てて行ってい

るので、それほどそれから大きく外れることはない。

意見２　・通常なら家庭で自然に身についていくことを授業の一環として体験していくとなると何度も組み込んでいくことが大切だと思う。

学校→・学校で体験を通して学び、それをまた家庭に伝えていくこと、家庭でも体験してもらうことが大切だと思っている。

質問２　・学部ごとの目標やテーマは毎年変わるのか。

学校→・基本的には学部の目標はそれほど変わらない。

意見３　・先ほどの学部ごとの目標はとても良いことなので、定着するためにも何年か続けてやっていかれるとよい。

・アットホームであることについての意見があったが、この学校はアットホームのままでよい。それは周りの私たち受ける側の社会の問題である。私たち大人が挨拶を先にしていけばよい。私たちが子どもたちに対してどういう接し方をすればよいのかを学ぶ必要がある。私も評議員をやらせていただいたおかげで声をかけられる。知ってもらって、分かってもらえる社会を作っていくことがとても大切である。

学校→・子どもたちを知ってもらうためにも小さいころから交流学習などを行っている。

意見４　・それが大切である。小さいころから交流をして、子どもたちのことを理解してもらい、接し方を知ってもらうことが大切である。子どもたちを分かってもらえる活動が大切である。

学校→・「かいづスマイルサポーター」の活動を通しても、子どもたちへの理解を広げたい。

意見５　・小中高等部の取組を見せていただいて、積極的に外に出ている印象だった。こちらから積極的に地域との関係をもつことで、理解が得られるし、受け入れられることにもつながる。事業所も同じだが、地域の一員として大切にしたい。

・小学部は中学部を中学部は高等部を、高等部は卒業後を意識して、社会的自立、職業的自立を目指して、段階的に取り組んでいるのだということが分かった。事業所としては、仕事ができることも大切だが、社会的役割を果たしていくという同じ目標があるので、うまくそれを卒業後引き継げるとよい。

学校→・今年度は、地域とのつながりということでは、海津市の商工会の方が学校に来ていただいて生徒に仕事や販売することなどについてとてもよいお話をしてくださった。また、そのつながりで産業祭に参加し、多くの海津市の市民の方とも触れ合うことができ、地域とのつながりが広がった。

意見６　・いろいろな方が、学校のことを考えて一緒に育ててくださっていることが分かる。子どもたちが「地域で生まれ、学校で過ごし、また地域に帰っていく」というための役割を開校から１０年たちしっかり根付かせている。児童生徒の人数は少なくなってきたが、商工会とのつながりもそうだが、新たに地域とのつながる活動が広がっている。子どもたちにとってもよい場となったのではないか。

意見７　・先ほどの学部紹介を見ても、先生方が愛情をもって子どもたちのためにと活動していることが分かる。先生が変わっても活動を引き継いでもらいたい。

学校→・小学部から中学部、中学部から高等部、そして卒業後、就労した企業や事業所などとしっかりと引き継いでいきたい。

6　会議のまとめ

短い時間の中で、今回は初めて学部ごとに活動の紹介をさせていただき、様々な貴重な意見や提言をいただき感謝している。今後の学校運営に生かしていきたい。